

記者発表（資料配布）				
月／日 (曜日)	担当部署名	電話番号 (ダイヤルイン)	発表者名 (担当名)	その他 配布先
3／8 (木) 14:00	県立考古博物館 企画広報課	(079)437-5589	副館長兼総務部長 小林 亮介 (埋蔵文化財課長 中川 渉)	東播磨県民局 但馬県民局

音谷 1 号墳・3 号墳（朝来市立脇）の発掘調査成果と速報展示について

（急）上地（3）地区急傾斜地崩壊対策事業に伴って、兵庫県教育委員会は(公財)兵庫県まちづくり技術センターに委託して音谷 1 号墳（おんたにいちごうふん）の発掘調査を行いました。

調査の結果、新たに 1 基の古墳が見つかり、石室内から須恵器や多くの金属製品（大刀・馬具等）が出土しました。

ついては、調査成果を広く県民に公開するため、下記のとおり速報展示を行います。

記

1 日 時 平成 3 0 年 3 月 1 0 日（土）～ 3 月 3 1 日（土）

2 場 所 県立考古博物館（加古郡播磨町大中 1－1－1）

メインホール展示ケース（土器展示）

※金属製品の展示はなし

ネットワーク広場（写真パネル等）

3 調査成果概要 別紙のとおり

3 問い合わせ先

（公財）兵庫県まちづくり技術センター

担当 埋蔵文化財調査部次長 甲斐 昭光

Tel 0 7 9 （ 4 3 7 ） 5 5 6 1 （土・日・祝日を除く）

県立考古博物館

担当 総務部埋蔵文化財課長 中川 渉

Tel 0 7 9 （ 4 3 7 ） 5 5 9 5 （土・日・祝日を除く）

音谷 1 号墳・3 号墳調査成果の概要

- 1 遺 跡 名 おんたに づうさん づうさん 音谷 1 号墳・3 号墳
- 2 遺跡の種別 古墳
- 3 遺跡の時代 古墳時代
- 4 所 在 地 あさごしたちわき 朝来市立脇
- 5 調 査 面 積 約 300 m²
- 6 調 査 期 間 平成 2 9 年 1 0 月 3 1 日～平成 3 0 年 2 月 1 6 日
- 7 調 査 原 因 (急) 上地 (3) 地区急傾斜地崩壊対策事業
- 8 調 査 主 体 兵庫県教育委員会
- 9 調 査 機 関 (公財) 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
岸本一宏副課長、村上泰樹主任技術専門員、西山昌孝臨時的専門職員、
森田昇太郎臨時的専門職員

10 調査の概要

- (1) 丘陵裾に築造された古墳 2 基を調査した。調査前から知られていた 1 号墳と、その南に接して新たに発見された 3 号墳からなる。
- (2) いずれも古墳時代後期の 7 世紀前半に築造された円墳と思われ、内部に横穴式石室をもつ。
- (3) 1 号墳は、長径 16m、短径 11m の楕円形の墳丘と推定され、幅 1.7m、高さ 2 m、長さ 8 m 以上の大型の横穴式石室がある。石室は 1 m 以上の大石を組み上げたもので、床には河原石を敷きつめ、奥に小型の石棺を安置していた。
- (4) 1 号墳の石室は、平安時代初期 (9 世紀) に墓として再利用されていたため、古墳の副葬品の数は少なく、元の形を留めるものも少ないものの、外装に銀を用いた儀礼用の大刀の一部、乗馬のために馬に装着した飾り馬具、鉄製の鏃 (やじり) 等が出土した。
- (5) 3 号墳 (仮称) は、墳丘の残りが悪く、規模は不明である。幅 1 m、高さ 1.5m、長さ 8 m 以上のやや小規模な横穴式石室を持つ。副葬品として、外装に金を用いた儀礼用大刀の破片、鉄製の刀・鏃等が出土した。

11 ま と め

- (1) この一帯は、古墳時代中期に但馬地域で 2 番目に大きな前方後円墳である船宮古墳が築造され、白鳳時代には立脇廃寺が建立されることから、古代「朝来郡桑市郷」の中心地と思われる。
- (2) 墳丘や石室の規模および副葬品の内容から、1 号墳は古代でいえば郷長クラスの人物を、3 号墳はその下位にある同族の人物を葬ったものと考えられる。
- (3) 主な遺構と遺物

時 代	遺 構	遺 物 (※)
古墳時代後期	1 号墳	金属製品 (銀装の大刀・飾り馬具・鉄鏃等) 約 150 点 須恵器・土師器
	3 号墳	金属製品 (金装の大刀・鉄刀・鉄鏃等) 約 75 点 須恵器・土師器
平安時代初期	1 号墳石室を再利用	須恵器・土師器・火葬骨

(※) 収納箱約 12 箱の土器、約 230 点の金属製品等を発見した

【提供写真】



1 音谷 1 号墳全景（空中写真）



2 音谷 1 号墳石室全景



4 音谷 1 号墳出土大刀



5 音谷 1 号墳出土馬具



6 音谷 3 号墳石室全景



3 音谷 1 号墳（右）・音谷 3 号墳全景（空中写真）